

第24期第6回科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会議事録

日 時: 2018年7月18日 10:00~12:00
場 所: 日本学術会議 6-A(1)(2) 会議室
出席者(敬称略): 井伊、大矢根、大山、小澤、亀田、駒井、西條、武田、藤井、松尾
Web出席者(敬称略): 相澤、渡辺
欠席者(敬称略): 丹下、梶田、中村、古谷
事務局(敬称略): 糸川参事官ほか

1) 前回議事録(案)の承認

分科会終了時までには修正事項等の申し出はなく、原案通り確定された。

2) 日本学術会議活動状況等に関する年次報告(案)

委員長より説明があり、承認された。

3) アンケート設問について

設問1から7について、担当者から要約が報告され、審議の上それぞれの項目での結論が得られた。

設問1: 学術の大型研究計画の対象について(担当: 藤井、井伊)

結論: 基本的に提案通り。

ただし、以下の点について策定の方針で丁寧の説明文を付ける。

- ・コミュニティの定義、規模(学術分野により異なるので基本的には提案者に任せるが、その定義や規模等が大型研究計画としてふさわしいかは評価の視点とする)。
- ・コミュニティの合意が取れているかどうか。
- ・実施機関の明確化とどのレベル(機関、学部等)でどの程度の合意が取れているか。
- ・開発・製作・設置だけでなく、運用、そして終了後のプラン。
- ・特に雇用、人材育成などの観点からの終了後の計画(評価の基準にも入れる)

設問2: 大型研究計画の提案者について(担当: 大山、相澤)

結論: 基本的に従来通り。

ただしアンケートの意見を踏まえて、策定の方針の説明文で、多様性の観点、コミュニティのどの範囲で、どの程度のレベルで合意され支持された提案なのか、を記述してもらうように促す。

設問3: 大型研究の種類(担当: 小澤、武田)

結論: 区分は提案通り。

区分IIはMP2020へ申請せず、リストを作成。

MP2017、MP2014などのフォローアップを行う。

過去の採択課題について実施済み、一部実施済みなどを調査するアンケートを実施。実施されている場合は、例えば新学術、特推進などの実施の形態、当初計画に対し、どの程度が実施できているか(資金手当の割合など)を自由記述でアンケート。

このアンケートを通して、採択済み課題が区分IIとなるかを判断。

設問 4:融合領域について(担当:丹下、梶田 / 説明:藤井)

結論:従来通り融合領域を設定。

まず関連する分野(複数)で評価し、さらに評価小委員会を(予め)別途設置して評価する。評価を希望する関連する分野を3つ以内で選んでもらう。

融合領域について、(分野別の課題と同様に)重点大型研究計画ヒアリングへの採択件数の目安を示すか、今後検討。

設問 5:評価の視点について(担当:亀田、中村)

結論:学術的重要性、緊急性をトッププライオリティとして評価する。

国際性、人材育成(プロジェクト期間中及び終了後)、SDGs、社会貢献なども評価の指標(すべてを満たす必要ない)として提示。

評価の透明性確保の観点から利益相反について配慮するように求める。

設問 6:重点大型研究の策定について(担当:古谷、藤井)

結論:3期9年の継続を認める。ただし下記のものを確認する。

進捗状況、コミュニティの支持。

修正があれば update 版(本筋は変わらないこと)。

また、必要に応じてヒアリングを実施。

コミュニティの判断で9年を待たず短期間で終了できる方式であること(条件2はそのため)を策定の方針等で丁寧に説明する。

設問 7:重点大型研究計画の策定プロセスについて(担当 西條、松尾)

結論:策定プロセスは現状通り。特に評価のプロセスは透明性や分野のバランスに注意。

評価小委員会の委員を選ぶ際に多様性に配慮をお願いします。

評価の公平性確保の観点から利益相反となる課題についての評価には参加しない(どのレベルを利益相反の目安にするかは今後の議論:大型ということから学部程度が適当か?)ように求める。

評価小委員会の委員をこれまで通り事前公表するか今後議論する。

評価小委員会の統合や新規設置に関しては各部会の意見を聞く(夏季部会で)。

今後について

アンケート結果、分科会での議論を踏まえて、MP2020 の募集要項の最新版を策定し、各部の意見を聴取(夏季部会などで)。それを踏まえて、総会でさらに意見を聞く。

マスタープランに関するシンポジウムは今後さらに検討する。

以上